

第 2 回 福山市地域コミュニティのあり方検討委員会 ワークショップで出された主な意見

- ◆テーマ 地域支援のあり方の検討
- ◆目 標 これからの地域支援制度について考える
- ◆進行内容
 - ① 活用している「地域支援（ヒト，モノ，カネ）」について意見共有
 - ② 様々な地域支援について、「足りないもの」や「足りないもの」について意見共有
 - ③ ①②から、あったらいいと思う支援のまとめ

- ◆参加者
ファシリテーター 渡邊 一成委員長（福山市立大学 都市経営学部）

Aグループ

井上 誠	地域づくり塾参加者（御幸学区）
林 千里	福山市PTA 連合会事務局
藤井 眞弓	福山市女性連絡協議会事務局長
廣田 要	福山明るいまちづくり協議会会長
真室 明美	福山市福祉を高める会連合会副会長
村田 政雄	福山市公衆衛生推進協議会副会長兼事務局長

Bグループ

後藤 健之	地域づくり塾参加者（深津学区）
佐藤 賢一	福山市自治会連合会会長
橋本 哲之	福山市社会福祉協議会会長
古谷 輝昭	福山市老人クラブ連合会副会長
渡邊 千裕	地域づくり塾参加者（日吉台学区）

- ◆委員長まとめ（ワークショップを実施して気づいたこと。）
- ①地域活動に活用できる助成・支援制度が分かりにくい。「地域のやりたいこと」から、どんな助成・支援制度があるかがわかる、「逆引きマニュアル」のようなものが必要では。
- ②人材がないわけではない。人と人を積極的に繋いでいくことが大事。
- ③無償で頑張ってもらう部分もあるかもしれないが、地域づくりを頑張っている人には対価を支払っても良いのではないか。コミュニティビジネスを展開するのも良いと思う。
- ④ICT時代の地域支援，地域活動のあり方を若い人も含めて考えていくべきではないか。時代は変化している。どれだけ労力の軽減ができるかが大事であり，時代の流れに乗って制度を見直すことが大事。

ワークショップで出された主な意見

<p>いら ない もの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・煩雑な事務手続（補助金の申請や報告の手続） ・バラバラな申請，相談窓口
<p>足 り な い もの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報（各種助成・支援，補償制度の詳細なPRが必要） ・学区と市の意見交流会 ・高齢者へのタクシー券配布方法の見直し（民生委員活動が負担） ・マンション住民が自治会加入する仕組み ・事業継続のための財源，各種団体への補助金（使途の見直し含む） ・人材（動く人，つなぐ人，仕組みをつくる人，コミュニティソーシャルワーカー，生活支援コーディネーター等） ・相談できる部署 ・FAX 設置，Wi-Fi 設備，電子町内会等 ・活動する人の特典（有償ボランティアの仕組み，交通費等の活動費）
<p>あ っ た ら い い と 思 う 支 援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館体制の充実（地域のまちづくりを支える力） ・公共施設の設備の充実（FAX，Wi-Fi 設置） <ul style="list-style-type: none"> ➢IT の活用も必要だが，人とつながる（会う）ことも必要であり，バランスが重要 ・書式の改善（市へ提出する書類は難しい） ・自治会加入支援（特にマンション），自治会加入について条例化 ・防災意識の高揚（普段からの声かけ） ・隣近所や人と人のつながりの大切さを行政がアピール ・バラバラな窓口（申請・相談）を統一 ・経験者を育てるシステム作り（人財大学の出前講座等） ・助成金，補助金等 ・「つなぐ人」「仕組みをつくる人」「専門性のある人」の育成・派遣 ・活動する人への特典（有償ボランティアの仕組み，交通費等の活動費） ・活動できる場 ・活動しやすい設備（プロジェクター，レコーダー等） ・LED 防犯灯取替時の補助制度